

2019年11月8日

株式会社経営共創基盤

代表取締役 CEO 富山和彦

パッシブ運用時代のエンゲージメントの担い手問題

投資運用の世界の太宗において、パッシブ運用の優位性が運用コストと運用成績の両面で強まっている。その結果、今後、インベストメントチェーンにおける投資家サイドのエンゲージメントの動機付けの希薄化、良質な担い手の減少が懸念される。

パッシブ運用の優位性領域の大きさは否定できないにしても、現在はパッシブ運用者がエンゲージメント遂行者にフリーライドしている側面もあるわけで、その隆盛の結果、全体としてのインベストメントチェーンに構造的な欠損が生じしてしまうと、長期的にはエンゲージメントの弱体化からコーポレートガバナンスの弱体化を招来し、持続的な企業価値の向上と、それを通じた国民資産の形成や ESG の達成に支障をきたすリスクがある。これは全体としての運用パフォーマンスの低下リスクを意味しているわけで、そうなればパッシブ運用者にとっても合成の誤謬となる。

どうすればこのようなエンゲージメント機能の欠損リスク、回避できるのか。集团的エンゲージメントなども含めて、いわば一つの公共財的な機能ともいえる、良質なエンゲージメント機能の担い手の質と量を担保する方法について議論し、その成果を将来のステewardシップコード改訂に反映することを期待する。